

版かわら芸備はらみ公中



9月の激しい集中豪雨や、すざましい竜巻などで被害にあわれたご家庭などが多くあったことをニュースで知りました。計り知れない悲しみの中でご苦労をされていることに心が痛みます。どうぞ通常の生活が出来るようになりますよう心からお祈り申し上げます。

さて今回、中央公民館で20年間の長きにわたり生涯学習に取り組んでおられる88歳になられる“柴田 敏子さん”をご紹介します。まさに“生涯学習バンザイ”です。

柴田さんは20年前より“陶友会”という陶芸グループに入会され、最初に作ったのが夫が晩酌をする“酒どっく”だそうです。(下の写真)「この酒どっくで毎晩晩酌をしていました。その夫も今は天国にいます。20年たった今も大切にもっています」と感慨深そうに、ポツポツと話してくださいました。そして今、下の写真のように 木の時計台に止まったふくろうを作り柴田さんは今も元気に陶芸に邁進されておられます。又88歳という米寿を迎えられました。“陶友会”の代表奥野さんを初め仲間の皆さんに励まされながら素晴らしい作品を作り続けておられます。なんとも温かいお話に心を打たれました。励ましあい、支えあい、楽しく、目標を持って取り組む姿勢は、まさに生涯学習を実践されておられるグループだな～！と感じました。柴田さん！これからも益々お元気で羽ばたいてください。米寿を迎えられ誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。



柴田 敏子さん



最初の作品



現在の作品



陶友会の皆様の作品

体験講座紹介

新しい風・生涯学習

初めての茶道教室(裏千家)

日程 10月9日(水)
場所 和室(3F)
時間 10:00～12:00
定員 10人
対象 大人
参加費 400円
締切り 10月7日(月)

ベビーマッサージ(0～5ヶ月)

日程 10月10日(木)
場所 和室(3F)
時間 10:00～11:00
定員 10組
対象 0～5ヶ月児とその保護者
参加費 300円
締切り 10月7日(月)

ベビーマッサージ(6～11ヶ月)

日程 10月11日(金)
場所 第1研修室(1F)
時間 10:00～11:00
定員 15組
対象 6～11ヶ月児とその保護者
参加費 300円
締切り 10月7日(月)

家庭でできちゃう 本格イタリアン料理

日程 10月28日(月)
場所 調理室(3F)
時間 10:00～13:00
定員 10人
対象 大人
参加費 1600円
締切り 10月21日(月)

ガラスアート入門

日程 10月30日(水)
場所 さざなみ学校(図書室)
時間 13:30～15:30
定員 15人
対象 大人
参加費 1200円
締切り 10月23日(水)

お知らせコーナー

10月26日と27日は
生涯学習フェスティバルが開催されます。
リージョンプラザ・中央公民館に遊びにきてね～！！



11月の体験講座紹介

- ①楽しいそば打ち(さざなみ学校) **お楽しみに！！**
②脳いきき体験教室
③パンで作るウエルカムボードとおいしいパンケーキ作り
〔クリスマスをもっと素敵にしよう〕
④ヘルシーで満足感たっぷり料理



三原市中央公民館
三原市円一町2丁目3番1号
講座の申込先 中央公民館生涯学習課
TEL 0848-64-2137



新連載企画

「海・山・空」夢ひらくまち

みはら地名由来学

中之町（なかのちよう）

御調郡山中村から三原市中之町！

JR三原駅北側にそびえる桜山（175m）から北東の方向には200m前後の山並みが続き、龍王山（665.1m）の山麓が張り出て、三原城から見て北東部の山中に位置していることから山中村の地名になりました。昭和十一年（1936）十一月十五日、御調郡山中村から三原市中之町になりました。当時は、中之町、中之町南、中之町北の地名がありました。三原湾に流入する和久原川は太郎谷川・大谷川などの水を集め、普段は川面に水の流れは見えないが、いったん雨が降れば濁流の川へと変貌し流路も変わってきたという歴史もあります。この地も灌漑用水が不足し、6〜9mぐらい掘らないと水の出が悪く、水の確保と米作りにかける執念と偉大さとして、祖先の人々の努力に対して感謝の念を抱きます。

太郎谷の一带には太郎谷遺跡等埋蔵文化財の包蔵地であると共に、縄文・弥生・鎌倉時代の遺物もたくさん発見されています。



上は昭和30年下組田畑が多い状態
下は昭和52年下組住宅・学校が存在



深町（ふかまち）

深と久山田は1村であった。

中之町太郎谷から松尾峠の大池から深町に入ります。古くは不加・不可とも書かれていました。この地の藤井川も水量が少なく灌漑用水が不足するため各地に池が造られています。明治二十二年（1899）に深と久山田を合わせて一村とし、深田村大字深と大字久山田となり昭和二十六年（1951）深村は三原市へ、久山田村は尾道市へ、村が二分され現在に至っています。

静かな山間に、総面積十二万七千㎡の校地を持つ巨大な学校（如水館中・高校）が開校し、また、老人施設等もあり地域の人々により新しい町づくりに取り組んでおられます。



1994年（H6）に移転した如水館高校
深町にある道路標識



歴史民俗資料館



三原みてある記（A5版）

四回にわたり、広島民俗学会理事 榎博自先生の「みはらみてある記」―町名考&ふるさと歴史散歩―と歴史民俗資料館の資料を参考文献に地名由来を掲載してまいりました。

冊子の中で、榎さんは「地名は歴史の生き証人、人間が各地で社会生活を始める段階で発生したもの。文字の使用よりはるかに古いのが地名。中央公民館のありる円一町の地名の由来はどうなんだろう。

また、三原市内の「さんずい」のつく地名を、沼田川流域を中心に見ると、沼田、沼田東、沼田西、松江、木浜、宮浦、宮沖。さらに本郷町では木々津、亀津。沿岸部では田野浦、須波、久津、渡瀬。島しょ部では鷺浦などの地名がみられ水とのかかわりがうかがわれます。その土地を知るのは歩いて見れば、地元の人話の間聞けると共に本、インターネット等では見ることが出来ない体験が出来ると言われています。体力づくりもかねて、住んでいる地域や周辺地域を歴史・文化・生活等を考えながら歩いていただくことを勧めておられます。

原始・古代

ちょっと考えてみよう
三原の歴史（1回）

三原の海岸線は、大昔は現在よりはずっと陸地に入り込んでいたと思われる。農耕生活が始まると、水や農地に恵まれた土地に移り住むようになり、遺跡は、沼田川や和久原川、西野川、御調川支流の八幡川流域に多く見られます。特に沼田川流域には大小さまざまな古墳が多く残っています。農業が盛んになるにつれて勢力の強い富んだ者が出現し、この地方を支配するようになったことが古墳を通して知ることが出来ます。その主なものは三原市域内では兜山古墳や鳩岡古墳、馬場谷古墳、宮の谷古墳さらに本郷町へ行くと、御年代古墳、貞丸古墳、梅木平古墳などがあります。

古墳（こふん）

三世紀後半から七世紀前半に土を高く盛り上げて造られた有力者の墓として盛んに築造されていた。



兜山古墳（沼田東町納所）
（昭和12年5月28日 県指定史跡）
直径45m、高さ7mの円墳で内部は未発掘のため不明ですが、5世紀中頃の古墳と推定されています。

来月から、本郷町・久井町・大和町について引き続き掲載します。